

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901290		
法人名	株式会社 三樹会		
事業所名	グループホーム ゆうゆうの家		
所在地	旭川市豊岡8条2丁目1番8号 (電話) 0166-33-5577		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月24日	評価確定日	平成22年3月29日

【情報提供票より】 (平成22年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 13日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 16人, 非常勤 8人, 常勤換算	18.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ブロック	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 9,000円 暖房費(10~4月) 8,400円	
敷金	有 (円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200円	昼食	200円
	夕食	200円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (1月 31日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	6名	要介護4		5名	
要介護5	5名	要支援2		0名	
年齢	平均 86歳	最低	78歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	整形外科進藤病院、菅野歯科医院、あおぞらクリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、理念にも明示されている「人として幸せに生きる日々を大切に」をモットーに、一人ひとりの尊厳や誇りを大切にケアしています。自分のスタイルに合わせ、自由な生き方で普通に暮らし、利用者の安心した表情が伺えます。スタッフも利用者一人ひとりの個性を尊重し、関わる大切さを日々感じています。住み慣れた地域の出身者が多く入居しており、見慣れた地域の資源を利用し、コンビニやスーパーと一緒に買い物をすることで、生活感を感じています。管理者は常に利用者の今後と安心・安全の暮らしを考えており、家族からは大きな心の支えとなっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の取り組みは「災害対策」の夜間想定避難訓練については、すでに実施しています。そのほかの検討項目についても継続取り組みとなっています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的は全員が理解しており、今回も職員が個々に自己評価に取り組み管理者がまとめています。評価を行なう事で、今後のケアに活かす大切な取り組みとなっています。外部評価後の改善検討や運営推進会議での報告、ホーム内での公開も予定されています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者・家族代表・地域住民・ホーム職員を構成員として2ヵ月に1度開催しています。会議では活動報告や利用者の状況、質疑応答、制度説明や意見交換も行ないホームの運営に活かしています。ホーム関係者が多くメンバーに偏りがあります。地域密着型サービスのホームとしての活動状況、利用者の様子などを報告しながら、地域に開かれたサービスの質を確保するため、さらに家族や地域住民、市の担当者や地域包括支援センターの職員を加えた、多くのメンバーによる会議の活性化が望まれます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者から利用者の暮らしぶりや健康状態を丁寧に知らせ、家族によってはコミュニケーション方法にも配慮しながら報告しています。職員は日頃から来訪時の面会を通して家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気作りに努め、要望については直ちに検討し希望に添えるようにしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員は利用者とは日頃から地域と馴染める生活作りに努めています。町内会にも加入しており、地域で開催される行事や祭りにも積極的に参加しています。夏季開催のラジオ体操や盆踊りに参加したり、保育園の園児がお遊戯をホームで披露するなど、相互に交流しています。また、災害時の地域との協力体制の話し合いも、継続的に続ける体制となっています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム内の随所にホーム独自の理念が掲示され、「人として幸せに生きる日々を大切に」と、「個人の尊厳を大切に暮らしのあり方」を詳しく説明し、地域との関わりも加え、利用者本位の判りやすい内容となっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、管理者から会議やミーティング、日常生活のなかで内容を含めた説明や関わり方の指導が行なわれています。職員は日々理念の確認を繰り返し行なうことで、具体的ケアの実践に活かせるように取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は利用者と日頃から地域と馴染める生活作りに努めています。町内会にも加入しており、地域で開催される行事や祭りにも積極的に参加しています。夏季開催のラジオ体操や盆踊りに参加したり、保育園の園児がお遊戯をホームで披露するなど、相互に交流しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は全員が理解しており、今回も職員が個々に自己評価に取り組み、管理者がまとめています。評価を行なう事で、今後のケアに活かす大切な取り組みとなっています。外部評価後の改善検討やホーム内での公開も予定されています。		

旭川市 グループホーム ゆうゆうの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族代表・地域住民・ホーム職員を構成員として2カ月に1度開催しています。会議では活動報告や利用者の状況、質疑応答、制度説明や意見交換も行ないホームの運営に活かしています。しかし、ホーム関係者が多くメンバーに偏りがあります。	○	地域密着型サービスのホームとしての活動状況、利用者の様子などを報告しながら、地域に開かれたサービスの質の確保するため、さらに家族や地域住民、市の担当者や地域包括支援センターの職員を加え、多くのメンバーによる会議の活性化を期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともに	市の担当者とは、ホーム運営上の問い合わせや相談を行なっています。今後は運営推進会議への参加協力を積極的に行ない、一緒にサービスの質の向上に取り組むことを検討しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には来訪時、管理者から利用者の暮らしぶりや健康状態を丁寧に知らせるとともに、家族によってはコミュニケーション方法にも配慮しながら報告しています。病院の受診結果についても、家族に経過を報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日頃から来訪時の面会を通して家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気作りに努めています。要望については直ちに検討し希望に添えるようにしています。家族の安心している様子が伺えます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく定着率が大変高くなっており、顔馴染みの職員による信頼関係でケアに努めています。離職がやむを得ない場合についても、引継ぎの研修を強化し、最善の方法で利用者へのダメージを防ぐ配慮をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員を経験や習熟度に合わせ、機会あるごと外部研修に参加させています。参加後も会議等で職員に報告が行なわれ共有も図られています。内部研修も積極的に行なわれており、職員は働きながら学びの機会が得られ、個別対応や柔軟な支援の実践力を身に付けています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の研修参加や、グループホーム協議会等の研修を通して交流の機会があります。職員も参加することで、他施設との情報交換によりサービスの質を向上させていく取り組みをしています。ネットワークを通じ、他ホームの交流も行ない連携に努めています。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族にホームを見学していただき、雰囲気確かめていただいています。体験入居の利用も勧め、馴染める環境作りに努めています。その後利用者や家族と面談し、希望や要望を伺い、安心して入居出来るようにしています。入居後は徐々に馴染める、細やかな配慮をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、役割を發揮できる場面作りの支援が行なわれています。一人ひとりの尊厳を大切に生活の場を意識し、自分らしさに重きを置き、利用者と一緒に支えあう関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自のアセスメントシートを活用し、利用開始前の生活情報や心身の状況、様々な情報収集を行ない記載しています。意思疎通が困難であっても日々の暮らしの中から利用者の希望・意向の把握に努め、関わりには意欲的に取り組み利用者の生活支援に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスでは積極的に意見交換が行なわれ、計画作成者は家族と相談し、次回の計画作成につなげています。家族から出された意見を反映し、利用者本位の計画作成をしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に6ヵ月に1度の見直しを行なっています。カンファレンスでは経過記録や職員の意見、家族の意見も入れた評価を行ない新しい計画書が作成されています。利用者の状態変化に応じて見直しを行ない、作成後には家族に直接説明し確認しています。	○	介護に関わる日々の記録は、介護計画に基づいた記録が望ましく、計画の見直しには欠かせないものです。活きたケアプランに反映出来るように、職員も参加し介護計画書に連動した記入方法の検討を期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や付き添いなど、利用者の希望に応じた柔軟な支援をしています。買物や散歩、ドライブや外食、夏祭り見学その他利用者の要望に応じた支援を行なっています。今後もより充実した内容になるよう、検討を続けています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は利用者の希望する医療機関への通院に同行し、主治医への状態の報告、聞き取りを行ない家族にも報告しています。安定した状態の時には薬取りなどの支援も行ない、適切な医療が受けられるように対応しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた細かい指針が用意されており、家族と方針を共有し同意をいただいています。関係医療機関と連携を図ることにより、今後予想される看取り・重度化・終末期の場面でも適切に対応できるように継続検討しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りや自尊心を損ねることのないような声かけや対応を職員は心がけています。写真の掲載や名前の表示、書類の管理についても個人情報の取り扱い、プライバシー保護が徹底されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や生活歴を尊重し、その人らしい生活となるよう支援しています。その人の生活スタイルに合わせ、急がせることなく、自分の時間作りを最重要視しています。今後も、利用者の要望に沿った支援の継続が検討されています。		

旭川市 グループホーム ゆうゆうの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を取り入れた内容で、メニューを作成しています。祝い事に特別食を設けたり、外食や行事食など変化もつけ、症状により刻みや流動食などの対応もしています。利用者の能力に応じ、準備や片付けなども手伝っていただいています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に4回の入浴体制となっています。入浴が生活の中で、楽しみのひとつとなるよう利用者の状態に合わせ、安全な入浴支援を行なっています。体調の変化により柔軟な体制も整っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の前後の準備片付け・掃除・買物など、生活の中で趣味や役割を持てるよう支援しています。手芸や趣味など能力を引き出せるよう取り組み、特にその人らしく生活できるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買物や、利用者の意向による散歩など外出の機会を多く作っています。専用車両の配備により、外食やドライブ・観光など柔軟に対応しています。今後も、より多くの外出の機会が持てるように検討が続けられています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は施錠していません。利用者が外出する様子が見られる時はさりげなく声かけし、一緒に出かける等で利用者の安全面に配慮しながら対応しています。		

旭川市 グループホーム ゆうゆうの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時・災害時のマニュアルは整備され、年2回の避難訓練を行なっています。想定される夜間場面での避難対応、地域への協力体制と利用者の安全が確保できるよう常に心がけています。職員全員の救急救命講習の受講やAEDの使用研修が未受講となっています。	○	救急救命講習の受講やAEDの使用研修は、急変や事故発生時にも慌てず確実に適切な対応のため大切です。職員全員が、実際の場面で活かせる技術を身に付けられるように、訓練や研修の受講機会の確保を期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量を個別に記録し、職員は情報を共有し体調管理を行なっています。メニューは、職員が利用者の好みや希望を取り入れ作成しています。食事内容も利用者の病状や摂取状況に応じた減塩、とろみ、お粥、きざみ食などの対応もしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく装飾等も工夫され、利用者にとって快適な居場所作りに配慮されています。職員との語りや潤いの時間を作り、コミュニケーションのきっかけとなっています。採光・暖房・湿度等も適宜調節され、気になる臭いもなく、一日を過ごす憩いの場となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者のプライバシーが尊重され、使い慣れた箆笥やベット、ソファ、仏壇が持ち込まれ、利用者が安心して暮らせるような工夫をしています。以前の生活と変わりなく精神的負担を少なくする配慮がされ、衣類も職員と一緒に入れ替えられています。		

※ は、重点項目。